

特定非営利活動法人小田原なぎさ会

2022年(令和4年)度事業報告

1. 基本方針と総括（特記事項）

- 精神の障害をはじめとした色々な障害を持つ皆さんが、自立した生活を営み社会復帰と社会参画を促進するための事業を行った。
- 年度基本方針「現在取組み中の活動継続とその内容充実に重点を置く」に沿って各種活動の推進に努めたが、想定以上に長引く新型コロナウイルス感染症（以下、コロナと記載）感染拡大の影響を受け、色々な工夫を盛り込みながら各々の活動を推進した。
- 2019年(令和元年)度に策定した中期的な活動指針「広げよう！『活動の輪』」は推進の4年目になり、終盤に入った。コロナにより制約が多い中での活動が続いたが、私達の活動にご理解と共感を持っていただける仲間（法人の会員や協働者など）を継続的に増やすことに注力し、2023年度末の数値目標(正会員数100名以上)を大きく上回る結果を得て、普及啓発事業の大きな飛躍の年度にすることができた。
- 3年前にコロナ感染拡大の中で創出した初めての自主製品『エコマグネット』は、普及啓発活動用途から始まり、外部の皆様から制作依頼をいただけるまで成長し、本年度からは更なる発展を目指して一般市場での販売を開始した。工賃アップの実現と共に、作業所での日常的な作業の1つに育ってきており、更に発展させていく。
- 小田原なぎさ作業所の運営では、従前同様に「気軽に立ち寄れる居場所作り」と「本人の希望や特性を配慮した相談支援・就労支援」を活動の2本柱として取組んだ。コロナ感染拡大の中、障害を持つ利用者(以下、メンバーと記載)が集う場所である作業所の開所継続はリスクを伴うものであったが、感染対策を更に強化するなどの努力を粘り強く継続することにより、一人の感染者を発生させることもなく年度計画通りに開所を継続できた。特にメンバーは決めたルールをしっかりと守るなど、常に協力的であったことに感謝している。そして、本年度も希望するメンバーへの就労支援を継続的に実施すると共に、新しいメンバーを受入れ、良い新陳代謝の状態を継続できている。本年度から新たに「休日開所」の取組みを開始し、希望するメンバーは休日にも通所できる環境を整えた。また、あらゆる障害者福祉事業所に対して義務化された「障害者虐待防止法の遵守」が示す本質的な意味を捉え、施設運営指針として『利用者センター、利用者ファースト』を掲げた。これを明文化して職員をはじめとした関係者に周知し、具体的な行動に向けて基盤を整えた。
- 連携事業及び普及啓発事業の一環として、医療・福祉教育機関からの学生実習受入を積極的に推進し、計画した内容を完遂した。学生とメンバーのよい交流の場にもなった。
- 当法人の活動及びその精神はSDGs(持続可能な開発目標)に深くつながっている。SDGs推進の一環として、作業所内で発生するゴミの回収資源化にメンバーの理解と協力を得て取組み、発生するゴミを半減できた。メンバーの環境に対する意識向上にもつながった。

2. 事業内容

- (1) 精神障害者等の社会復帰を促進する為に必要な施設の設置、運営事業
- (2) 精神障害者等の社会復帰を促進する為の普及、啓発事業
- (3) 関連機関・団体との連携に関する事業

上記、(1)～(3)の事業を推進するため、下記の各活動を行った。

尚、主な活動の実績を添付別紙1「2022年(令和4年)度の主な活動計画と実績」に示す。

* 総会・理事会・月例会議・地域ネットワーク会議等の開催

- ① 認定特定非営利活動法人小田原なぎさ会の通常総会を5月20日に開催し、年度を通した各事業の取組み状況報告及び各議案の審議を行った。
- ② 理事会を開催し、当会の運営及び各事業について、必要な情報共有と協議を行い法人運営と事業推進に努めた。(開催日：4/22、9/7、2/10、3/15) 4回
- ③ 月例会議を毎月定例開催し、当法人全般に関わる活動状況と小田原なぎさ作業所における日々の活動状況について、必要な情報共有と協議を行い法人活動及び施設運営事業の充実を図った。
(開催日：原則毎月第1金曜日) 12回
- ④ 地域ネットワーク会議を開催し、地域を巻き込んだ活動展開について協議するなど関係先との連携事業の推進を計画したが、コロナ感染が拡大傾向にあったため3回の会議を中止し、1回のみを開催とした。
 - ・地域ネットワーク会議(広域) 開催1回 開催日：6/15
 - ・地域ネットワーク会議(近隣) 開催2回共に中止 0回

(1) 精神障害者等の社会復帰を促進する為に必要な施設の設置、運営事業 (地域拠点活動 等)

○小田原なぎさ作業所(以下、作業所と記載)の運営

・内容：

- ①日々の活動であるメンバーの各種生産活動(作業)について、その生産計画策定や作業指導を職員が連携して推進した。また朝夕のミーティングや室内清掃などは、今までに構築してきたシステムを踏襲し極力メンバー主体で自主的に行うように運用している。本年度もコロナの影響を受けて、日々の作業や各種イベントなどを以前のように安定して計画・実行することが難しい場面も多々あったが、昨年までの経験を活かしてコロナ感染対策を強化しながら運営形式の工夫などを盛りこんで取組んだ。バス旅行などは感染リスクを配慮し開催を中止した。これらの活動を通して、メンバーが自ら生活のリズムを整えることやソーシャルスキルを向上すること、そして自主性の育成や社会参画の意識を向上することにつなげる支援を継続した。

- ②『メンバーの自己選択・自己決定』を礎とし、メンバー1人ひとりの障害の程度や希望・特性を配慮しながら自立（自律）促進に取り組んだ。各々のメンバーとの個別面談を大切にし、「目標設定⇒振り返り⇒必要な目標修正」のループを廻して面談内容の充実を図り、面談で得た情報の職員間での共有にも力を入れている。約7年前から着手した「希望するメンバーに対する就労に向けた支援」も継続的に実施している。本年度も2名のメンバーを就労及び就労に向けてステップアップさせることができた（P8のグラフ1参照）。また、新しく2名のメンバーを受入、良い新陳代謝の状態を継続できている。一方で、以前は統合失調症のメンバーが大半であったが、近年の傾向として、知的障害や発達障害を持つメンバーが増えてきていることがある。今後もメンバーの多様化が進むと捉え、各々の障害に対して適切な支援ができるように努力を継続している。
- ③上記のメンバーの多様化に着目し、職員の資質向上に向けた研修を引続き強化している。本年度も、数年前から開始した内部研修を毎月開催し、指導員としての知識とスキルアップにつながる取組みを継続して実施した。
- ④障害者虐待防止法の本質は、「障害者の意思及び人格の尊重」にあると捉えている。上記の内部研修では、この法律に関する基本的な知識や具体的な対応方法を学習し、改めて私たちの支援活動を見つめ直す良い機会にもなった。また、障害者虐待防止の推進に向けた体制を整備し、より良い支援活動に向けた一歩を踏み出した。
- ⑤「障害に関する映画上映とその後の意見交換会」は、本来メンバー自身が自分を見つめなおす機会を設けることを目的として実施してきたが、昨年度と同様にコロナ禍でのストレス解消に位置づけを変えて、みんなでリラックスして楽しめる映画上映とした。メンバーにとっても良いリフレッシュの場になった。
- ⑥「植付⇒管理⇒収穫⇒収穫祭」の一連活動として定着している畑体験は、コロナ感染対策をうちながら、「収穫祭」を除いて一連の体験を実施した。コロナ禍の中だからこそ、このように自然の中に身を置くことで、リフレッシュにもつながったと考える。今後も、協力者の応援を得ながらこのような活動を通して、仲間同士の協力や協力者への感謝の姿勢など、人間関係構築に大切な感性を体験的に高めていくことに努めていく。
- ⑦8年目に入った『エコキャップ活動』は、「私たちも誰かを支援できる！」を合言葉にメンバーが主体になって推進する自主活動として定着している。色々な団体・教育機関・地域の皆様などの活動応援をいただきながら、想定を遥かに超える活動に成長しており、活動開始からの収集キャップ総重量が約2600Kg（総数110万個以上）を越えた（P8のグラフ2参照）。この活動が継続して大きく発展してきたからこそ、コロナ禍の中で自主製品『エコマグネット』の創出につなげることができたと考える。また、本活動は比較的人との接触を伴わずに推進できることから、コロナの影響をさほど受けずに推進できた。

このような活動を通して、色々な機関・団体など地域との連携やつながりを強化していくと共に、メンバー自身が自らの存在価値を再認識することや、その達成感ややりがいを感じるなどにより、自主性や社会参画意識の向上につながるように努めた。

⑧ コロナ禍の中で創出した自主製品『エコマグネット』は、当初の普及啓発活動用途から外部の企業や団体及び個人の皆様から製作依頼をいただけるまでに成長してきた。本年度から、更なる発展を目指して一般市場での販売を開始した（P8のグラフ3参照）。具体的には、小田原市のPRキャラクター「梅丸」や北条五代PRキャラクター及び南足柄市のPRキャラクター「よいしょの金太郎」について使用許可をいただき、これらをあしらったエコマグネットなどの販売開始がある。コロナ禍の影響を受けて思うようには進まなかったが、手ごたえのあるスタートを切ることができた。
エコマグネットはSDGsの実践製品『アップサイクル製品（当初の目的を終えたものを再使用した新たな価値ある製品）』であると共に、これらを製作するメンバーの工賃アップにつながっている。

⑧ 外部主催の富士見地区防災訓練等への参加は自粛したが、作業所独自の避難訓練は、昨年同様にコロナ感染対策をうちながら収縮梯子を使い実施した。このような活動を継続的に実施し充実させていくことで、職員・メンバーの安全確保に対する感性と行動力が着実に向上している。

⑨ ボランティア活動の皆さんの受け入れは、コロナ感染対策を徹底した上で活動していただける方の年齢などを考慮して、再開した。

⑩ 悩みや相談ごとのあるメンバーのために、多くの相談の場を設けた。

- ・ 日時： 開所日数247日（含：休日開所日数12日）
- ・ 場所： 認定特定非営利活動法人 小田原なぎさ会 作業所
- ・ 従事者： 10名程度
- ・ 受益対象者： 小田原市、箱根町、湯河原町、真鶴町 等 利用者 37人
- ・ 支出額： 11,917,533円

（2）精神障害者等の社会復帰を促進する為の普及、啓発事業（地域交流活動等）

○ 中期的活動指針「広げよう！『活動の輪』」の推進

- ・ 内容： 普及・啓発事業の強化を目指し、5年間を一区切りとして推進している中期的活動指針「広げよう！『活動の輪』」は、本年度が4年目であり終盤に入った。私達の活動にご理解と共感を持っていただける仲間（法人の会員や協働者など）を継続的に増やすことに注力し、2023年度末の数値目標（正会員数100名以上）を大きく上回る結果を得て、普及啓発事業の大きな飛躍の年度にすることができた（P8のグラフ4及び5参照）。引続くコロナ禍のため多くの制約がある中での活動になったが、Eメールや郵便を活用するなど色々な工夫を凝らしながら、「強い想いと意志」のもとに普及啓発や協働の投げかけを進めた。この結果として、当法人創立以来はじめての団体会員が誕生し、北は北海道から南は九州まで会員が広がり、本年度末で110名を超える会員数まで「活動の輪」が広

がった。引続きNPO法人の原点である市民活動・社会活動の拡大を図り、小田原をはじめとあらゆる地域での市民活動・社会活動の底上げを目指す。

- ・日時： 随時（年20回以上）
- ・場所： 認定特定非営利活動法人 小田原なぎさ会 その他各地
- ・従事者： 10名程度
- ・受益対象者： 小田原市を中心とする日本各地のみなさん約500人
- ・支出額： 698,971円

○地域イベントへの参加・法人イベントの企画及び実行

・内容：

- ①新田公民館文化祭・夏祭りをはじめとする多くの地域主催イベントや楽しい音楽会(市事連主催)などは、昨年同様にコロナ感染拡大の影響で開催が中止になった。一方、赤い羽根共同募金活動(社協主催)・おだわらハートフェスタ(小田原市主催)・UMECO祭り(おだわら市民交流センターUMECO主催)・かながわハートフルフェスタ in おだわら(神奈川県主催)等のイベントは開催された。但し、コロナ感染が拡大傾向にある時期であり、参加するかどうかの判断にかなり悩んだが、各々のイベントに応じたコロナ感染対策を講じて参加した(多くは無人での活動紹介や自主製品エコマグネット一般販売を実施)。
- ②「なぎさ祭(第9回)」や「クリスマス地域交流会(第7回)」は、昨年度同様に規模を縮小して内部関係者とメンバーのみで開催した。

- ・日時： 随時（年10回以上）
- ・場所： 各々開催場所及び関係機関や地域全般
- ・従事者： 10名程度
- ・受益対象者： 利用者の保護者・小田原市を中心とする地域のみなさん約300人
- ・支出額： 上記“中期的活動指針「広げよう！『活動の輪』」の推進“に含む

○リーフレットや機関紙・ホームページ等の活用

・内容：

- ①リーフレットを活用して、普及啓発を推進した。
- ②機関紙を2回発行し（No. 32：4月1日、No. 33：10月1日）、広く普及啓発に活用した。
- ③地域のご協力の下、富士見地区を中心に上記機関紙の配布(回覧)を継続的に推進し、地域交流や普及啓発に注力した。
- ④小田原地区を中心として合計14カ所(13機関及び1店舗)にリーフレットを常設させていただき、継続した普及啓発に努めた。
- ⑤情報発信のツールとして効果的と考えるホームページを活用し、当法人の活動紹介と地域社会への理解や協働の投げかけを発信した。本年度までの累計ビューワ件数が1万件を超えるまで(前年度までの累計約8000件)着実に伸ばすことができた。但し、タイムリーな更新が滞ることがあり、反省点である。

*上記各種の発信源は、新しい通所希望者や新規入会希望者及びボランティア活動希望者等へのつながりツールとして活用実績が出ている。中期的な活動指針「広げよう！『活動の輪』」の推進に向けても、活用した。

- ・日時： 常時
- ・場所： 認定特定非営利活動法人 小田原なぎさ会
- ・従事者： 数名程度
- ・受益対象者： 機関紙発行部数 1 1 0 0 部、
HP 累計ビューワ一件数 1 0 0 1 1 件（2023 年 3 月 31 日現在）
- ・支出額： 上記“中期的活動指針「広げよう！『活動の輪』」の推進“に含む

○精神障害者の就労支援の拡大展開（例；企業とのコラボ活動探索）

- ・内容： 本年度はコロナ感染拡大の影響などもあり、本活動は停滞した。今までに実施してきた①大小企業・②小田原箱根商工会議所・③小田原公共職業安定所（ハローワークおだわら）とのコンタクトや小田原ロータリークラブでの講演などを含めて、精神障害者の就労拡大（雇用と定着）につながる協働の投げかけを今後も粘り強く推進していく。
- ・日時： 随時
- ・場所： 地域全般
- ・従事者： 数名程度
- ・受益対象者： 国内外の支援企業・団体 等
- ・支出額： 上記“中期的活動指針「広げよう！『活動の輪』」の推進“に含む

○行政への要望活動

- ・内容： 令和5年度に向けた要望書を小田原市長へ提出すると共に、市長と面談して要望内容を直接説明した。また、同時に全ての小田原市議会議員へ同要望書を写しとして配布した。長期にわたり粘り強く要望している「精神障害者の就労支援の強化（雇用促進の取組強化と就労定着に向けた環境整備）」と「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた実効ある取組み」及び「自治体区分を越えた包括的な障害者支援」の具体的な推進に加えて、本年度は「地域活動支援センターに対する補助金増強」を新たに要望した。これは、制度化以来10年以上にわたる同じ補助金システムを時代の流れに即したものに改善することを求めたものである。
- ・日時： 3月8日
- ・場所： 小田原市役所
- ・従事者： 数名程度
- ・受益対象者： 県・小田原市・医療機関・福祉機関 等
- ・支出額： 上記“中期的活動指針「広げよう！『活動の輪』」の推進“に含む

(3) 関連機関・団体との連携に関する事業（地域ネットワーク活動 等）

○地域ネットワーク会議（広域・近隣）

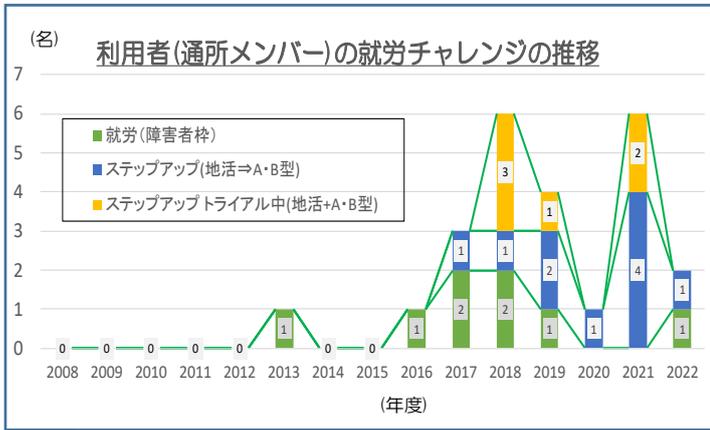
- ・内容：医療・福祉・行政などの機関や地域住民の方々に参加していただき、地域福祉の推進に向けたネットワーク会議を4回開催として計画したが、本年度はコロナ感染リスクを回避して3回の会議を中止し、1回のみ開催とした。平成29年度から広域と近隣の2部構成として試行してきたが、概ねこの開催形式が定着化してきている。今後も各々の会議構成者の特徴を活かして、ネットワーク構築の更なる強化と協働への手がかりを探索していく。
- ・日時：地域ネットワーク会議(広域) 開催日：6/15 1回のみ
- ・場所：認定特定非営利活動法人 小田原なぎさ会
- ・従事者：10名程度
- ・受益対象者：ネットワーク会議参加団体及び地域住民のみなさん 15名程度
- ・支出額：648,944円

○関係団体や連携団体との交流活動

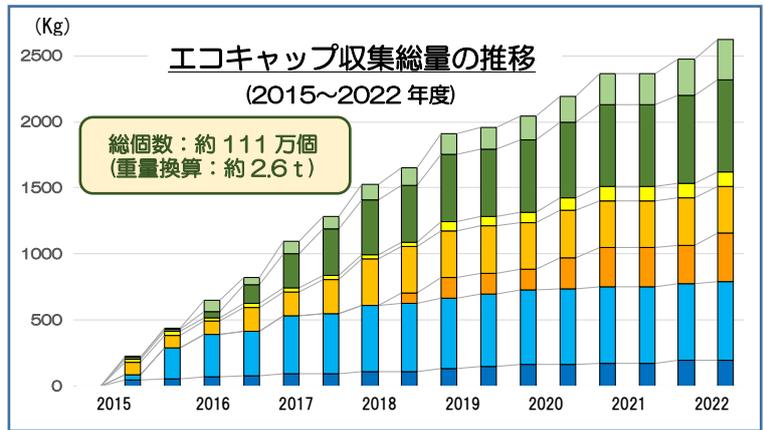
- ・内容：神奈川県精神障害者地域生活支援団体連合会（県精連）や小田原市障害者事業所連絡会（市事連）及び地域精神保健福祉連絡協議会などの関連団体や連携団体との協議や研修は、その時のコロナ感染状況を配慮した形式（リモート会議など）で開催され、積極的に参加した。「障害者虐待防止法」をはじめとした新しい情報の入手などに努めた。
- ・日時：年10回程度
- ・場所：神奈川県内、小田原市周辺
- ・従事者：数名程度
- ・受益対象者：県・市内の関係団体 10数団体
- ・支出額：上記“地域ネットワーク会議（広域・近隣）”に含む

○教育機関との協働活動

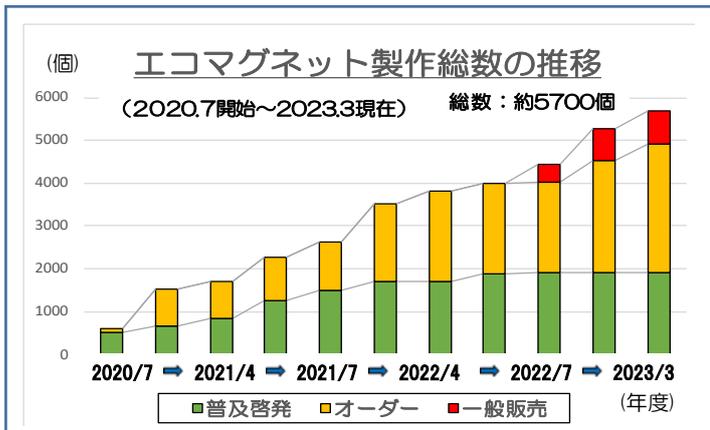
- ・内容：連携事業及び普及啓発事業の一環として、教育機関からの学生実習受入を本年度も推進した。国際医療福祉大学（看護学科の臨地実習）と、神奈川県立平塚看護大学校（臨地実習及び地域密着健康教育学習）との協働である。本年度もコロナ禍の中での活動になったが、今までの経験を活かして感染対策をうちながら、無事当初計画通りに学生学習の対応を終えることができた。平塚看護大学校の地域密着健康教育学習では、本年度も学習結果報告会に参加させていただき、学生の学びや成長を直接的に感じる事が出来た。これらの医療・福祉系教育機関との協働関係を深めていくことにより、当法人が持つ社会的資源を活用していただくと共に、メンバーや職員にとっても若者たちとのよい交流や学習の場に育ってきている。
- ・日時：年20回程度
- ・場所：神奈川県内、小田原市周辺
- ・従事者：8名
- ・受益対象者：県・市内の関係教育機関 2団体
- ・支出額：上記“地域ネットワーク会議（広域・近隣）”に含む



グラフ1 (就労に向けた支援の推移状況)



グラフ2 (エコカップ活動の推移状況)



グラフ3 (エコマグネット製作総数の推移状況)



グラフ4 (一般市民の正会員数の推移状況)

普及啓発活動により一般市民の正会員数アップ!

中期的な活動指針 広げよう! 『活動の輪』 ➡ 市民活動・社会活動を広く展開!



グラフ5 (普及啓発活動による正会員構成変化の状況)